

CHALLENGER!



秋田市 一般社団法人Rideon (ライドオン)

学内ライドシェアシステムの開発・運営

車がなければ、買い物や通院にも不自由する——。秋田にある国際教養大学の学生たちは、公共交通が限られた環境で移動の制約が生活や学業に影響するという課題を抱えてきた。特に車を持たない学生は、授業やアルバイト、急な用事への対応が難しい現実に直面している。

こうした状況を打破すべく立ち上がったのが一般社団法人Rideonである。同法人は、学生同士が支え合う「学内ライドシェア」の仕組みを展開。現在は留学中の代表・大矢玲菜（おおやれな）さんに代わり、サークル代表の福岡勇瑠（ふくおかたける）さんを中心に数々の壁に挑んでいる。事業の現状や実現に向けた想いについて、福岡さんに話を聞いた。

学生同士が支え合う、新しい移動手段「学内ライドシェア」

Rideonが目指しているのは、タクシーとは異なる「学内ライドシェア」という新たな移動の仕組みだ。自家用車を持たない学生が、同じ大学に通う学生の車に相乗りし、買い物や通院など、日常生活に欠かせない移動を支えることを目的としている。

日本では、許可を得ずに報酬を受け取って人を運ぶ行為は「白タク行為」として法律による規制の対象となっている。近年、タクシー会社の管理下でライドシェアが一部解禁され、2025年には秋田市でも運行が始まったが、料金はタクシー利用時とさほど変わらず、

市が主体となって行っている予約制の乗合タクシーも、運行時間が限られているのが現状だ。

そこでRideonでは、独自に開発する専用アプリを通じ、利用者が支払った料金のうち、運転手にはガソリン代相当の実費のみが支払われる仕組みを想定。学内関係者に限定したマッチングで、安全性にも配慮している。アプリは予約機能にとどまらず、安全管理や金銭管理を担う運営の核であり、その開発が進められている。

学生発、移動の新しいカタチ 不便を共助で乗り越える

国際教養大学を拠点とした実践の場——Rideonで体感する現実のビジネス

活動の拠点である国際教養大学には、学生が主体的に学びを組み立てられる自由な環境がある。将来の起業にも関心を寄せる福岡さんは、グローバルビジネス領域で学びながら経営や経済のみならず、社会課題や地域の現状にも目を向け、多角的な視点を身につけたいと考えてきた。

こうした大学での学びに加え、Rideonでの活動は実践して学べる場となっている。外部とのやり取りや企画運営、法律や資金面についての課題など、現場で直面する一つひとつが学びだ。机上では分からない現実のビジネスを体感できるこの環境が、学生たちの挑戦を後押ししている。



Rideonの取り組みについて説明するサークル代表の福岡さん

課題と向き合いながら前進を続ける、学生組織とアプリ開発の現在地

Rideonは現在コアメンバーを中心に、広報、マーケティング、開発、総務など複数の部署に分かれて運営されている。役割は多岐にわたるが、そのすべてを学生が担っている点が大きな特徴だ。国際教養大学では留学が必須であるため、学生代表は原則1年ごとに交代する。組織内では培った知見や想いを次世代へ確実に継承する体制を築きながら活動を続けている。

ライドシェアを支えるアプリ開発の過程では試行錯誤を重ねてきた。現在は新たな体制のもとで再構築が進み、完成は目前に迫っている。実証実験では利用者数の推移や告知方法といった課題も浮かび上がったが、改善と検証を繰り返しながら実現に向けた歩みを続けている。



課題解決に向け、活発に議論を重ねるRideonのメンバーたち

事業詳細

秋田県が抱える交通課題に向き合い、学生同士が支え合う学内限定の「コミュニティ内ライドシェア」を開発・運営。専用アプリを通じて、安全性と法令順守に配慮したマッチングを実現し、買い物や通院など学生の移動を支援する。地方で暮らす学生の利便性向上と、持続可能な移動の仕組みづくりを目指している。



会社名 一般社団法人Rideon (ライドオン) 代表理事 大矢玲菜 (サークル代表: 福岡勇瑠)
連絡先 HPのお問い合わせフォームから

福岡さんからひとこと

学生の移動課題を解決するため、我々の挑戦を応援してください！

アプリ開発や運営を継続するため、資金面でのご支援をお願いします。